

れんごう鳥取

発行・日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人・本川博孝 編集人・森本哲司
〒680-0847 鳥取市天神町30-5
TEL(0857)26-6605・FAX(0857)26-6615
E-mail: tottori@tottori.jtuc-rengo.jp
ホームページ: https://jtuc-tottori.jp

自宅と職場でディーセント・ワークについてつぶやこう! -10月7日 連合ホームページをチェックしよう-

10月7日は
何の日か知っていますか?

“ディーセント・ワーク”って
知っていますか?



連合を含む「国際労働組合総連合（I T U C）」は、公正で持続可能な社会の実現に向けて取り組みの一環として、2008年より「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）世界行動デー（10月7日）」に世界一斉行動の実施を呼びかけています。連合はこの呼びかけに応え、すべての人間に「ディーセント・ワーク」が保障される社会の実現を訴える取り組みを全国で実施してきました。

東部、中部、西部、3つの地域連合鳥取においても、毎年、連合はみなさんのご意見をもとににより良い社会をめざしていきます。

しかし、本年はコロナ禍での取り組み方を検討し、連合本部作成の動画と、連合ホームページ内の「自宅と職場でディーセント・ワークについて、つぶやこう！」の特集を組合員のみなさんにご紹介することとしました。みんなさんの率直な意見や感想、不满をつぶやいてください！

連合はみなさんのご意見をもとににより良い社会をめざしていきます。



連合ホームページ

ディーセント・ワークの動画はこちら



連合 Facebook



Twitter

(連合 PR 大使 ユニオニオン)

ハッシュタグは World Day for Decent Work の略で #WDDW でつぶやこう！

2020年10月2日から

2円UPの
鳥取県の最低賃金は**792円**

2021年度政策・制度要求 鳥取県担当部局との 意見交換を実施

8月17日(月)、本川博孝会長から平井伸治鳥取県知事に手交した「2021年度政策・制度要求(34項目)」のそれぞれの項目について、担当部局と意見交換を実施しました。

連合鳥取参加者から、要請項目について具体的な事項を説明し理解を求めました。



9月3日
(木)



9月7日
(月)

〈鳥取県担当部局との意見交換〉

対応部局	要求項目
商工労働部	コロナ禍における雇用対策 鳥取県経済の好循環に向けて 雇用の安定と公正な労働条件の確保 働く者のための実効性ある働き方改革の推進 若者等の就労支援 あらゆるハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現 ジェンダー平等の視点に立った社会制度・慣行の見直し 障がい者雇用 外国人労働者が安心して働くことのできる環境整備 県内企業の紹介活動強化と誘致企業との連携強化 第4次産業革命における地元企業支援強化 地域別最低賃金 公正労働基準の確保 私立高等学校の振興と教育環境の整備、生徒・保護者の負担軽減等
福祉保健部	働く者のための実効性ある働き方改革の推進 生活困窮者自立支援体制確立 子どもの貧困対策 切れ目のない医療を提供する体制の確立 鳥取県地域医療構想 食育を通じて県民の知識や考え方の向上や地産地消を進める取組の強化
令和新時代創造本部	鳥取県経済の好循環にむけて あらゆるハラスメントの根絶とジェンダー平等の実現 ジェンダー平等の視点に立った社会制度・慣行の見直し
地域づくり推進部	働く者のための実効性ある働き方改革の推進 各種選挙における投票率向上に向けた取組 参議院選挙における合区解消に向けた 地域公共交通の利用促進 ノーマイカー運動の促進 災害復旧費用の事業者負担の軽減 地方鉄道の利用促進策 獸害被害への対応
交流人口拡大本部	若者等の就労支援 人材流出の抑制と人材確保
危機管理局	教育の機会均等の保障、教育環境施策の拡充 災害発生時、避難の迅速化
生活環境部	子どもの貧困対策 悪質クレーム(迷惑行為)対策の強化
子育て・人材局	私立高等学校の振興と教育環境の整備、生徒・保護者の負担軽減等
教育委員会	各種選挙における投票率向上に向けた取組 教育の機会均等の保障、教育環境施策の拡充 私立高等学校の振興と教育環境の整備、生徒・保護者の負担軽減等 食育を通じて県民の知識や考え方の向上や地産地消を進める取組の強化
会計管理局 県土整備部	公正労働基準の確保 働く者のための実効性ある働き方改革の推進 水田活用の直接払交付金の見直し 鳥取県ブランド米の生産・販売強化対策 新型コロナウイルスの農業支援対策 自然災害による農業被害に対する支援体制拡充 食育を通じて県民の知識や考え方の向上や地産地消を進める取組の強化
農林水産部	

ハラスメントのない職場で安心して働き続けていくために 「女性の声」を発信していきましょう!! —女性委員会「産別交流会」に19人参加—

9月5日(土)、倉吉交流プラザにて連合鳥取女性委員会『産別交流会』を開催しました。

コロナの影響によりリモートによる「講演」と、「アロマオイルを使ったルームスプレー作り体験」を行いました。

◆講演 「ジェンダーギャップと連合の取り組み」

講師／連合ジェンダー平等・多様性推進局長 鈴木るりさん

〈内容抜粋〉①日本はジェンダーギャップ指数(各国内の男女間格差を数値化しランク付けしたもの)が世界153か国中121位(分野別:経済 115位、教育 91位、政治 144位、健康 40位)であり、G7の中では最低。
②男女平等の推進をめざし、連合が取り組んでいることを紹介。
③組織が女性執行委員を選出したことによる変化を紹介。

〈感想〉リモートによる講演は大きな通信障害もなく順調に進みました。女性組合員の相談や活動への参加が増えたり、ハラスメント対策等の課題が前進したりと、プラスになったことが多く意見として挙がっていたことに興味を持ちました。女性もどんどん活動に参加していくべきだと感じました。

◆講義&体験 テーマ／免疫力アップ!アロマセラピーで体と心の健康作り

講師／細田和美さん(生活の木ハーブギャラリー米子店)

〈感想〉アロマセラピーの基礎知識を教わった後、ルームスプレー作り体験をしました。オイルの調合具合によって香りが変わるので、みなさん楽しそうに自分なりのスプレーを作っておられました。マスクスプレーとしても使えます。講義はアロマセラピーを知るうえでとてもためになり、アロマオイル体験では自分だけの香りができることがとても楽しく、参加者のみなさんもとても楽しそうでした。

<寄稿 女性委員会幹事 小田川愛美さん>



あいさつする澤田陽子女性委員会委員長



調査を楽しむ参加者のみなさん

怒りのコントロール上手にできていますか? —第9回鳥取県労働・福祉事業四団体合同研修会に52人学ぶ—

鳥取県労働・福祉事業四団体運営協議会【連合鳥取・(一財)鳥取県労働者福祉協議会・中国労働金庫鳥取県営業本部・こくみん共済coop鳥取推進本部】主催による合同研修会が、9月9日(水)白兎会館で開催され、「アンガーマネジメントの実践～イライラ・怒りの感情うまく付き合うためのテクニック～」をテーマに講演を聞きました。

あいさつする本川会長

講師／笠木理恵さん

当初4月開催予定でしたがコロナ禍により延期され、アルコール消毒、検温、ソーシャルディスタンス確保等、感染拡大予防を徹底しての開催となりました。冒頭、主催者を代表して連合鳥取の本川博孝会長が、「コロナ禍の不安から『イライラ』が増える傾向にある。そんな感情をうまくコントロールできるよう学びましょう」とあいさつし、研修会はスタートしました。

講演は、一般社団法人日本アンガーマネジメント協会のアンガーマネジメントファシリテーターの笠木理恵さんを講師に迎え、「怒りとは」「その正体は」「仕組みは」等から自分自身の「怒り」を客観的に見る事や、「怒らない」ではなく「上手に怒る」事が大事であると学ぶことができました。

この学習を契機に事あるごとに思い出しながら、何度も意識することで、怒りと上手に付き合うアンガーマネジメントができるはずですが、一朝一夕とはいきないでしょう。何事も、繰り返し繰り返し反復し、自分のものにする必要があります。そのキッカケづくりとなる研修会でした。

全国農団労より提案

10月16日は世界の飢餓や栄養不足とその解決策について考える日 『世界食糧デー』です

全国農団労は「家族農業を基軸に安全・安心を基本とする農業再建を目指す」ことを運動方針のひとつとして掲げ、その取り組みのひとつとして『世界食糧デー行動』を行っています。

世界で暮らすすべての人が、安全で安心、栄養があるものを十分に食べられるようにするにはどうしたらよいでしょうか?

地球上には世界の人口77億人を十分賄うだけの食糧があります。なのに9人に1人、8億2100万人が飢えに苦しんでいます。一方、世界では生産された食べ物の3分の1が廃棄されています。日本でも毎年2842万トンの食料が捨てられ、食べ残しや賞味期限切れなど、まだ食べられるはずのものは646万トンもあります。

国際社会は、持続可能な開発目標(SDGs)の中で2030年までに“飢餓をゼロに”することを約束しています。生きるために最低限必要な食べることさえも十分ではない人たちがいることは世界も日本も同じです。すべての人が安心して食べられるように、今日から行動してみませんか。

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

「診断」にチャレンジ!!

あなたの中の「無意識の思い込みや偏見」をさぐってみませんか?

みんなで食べる幸せを

「世界食糧デー」期間 2020.10.1 ~ 10.31

産別リレー 伯備線触車死傷事故を風化させないために

JR総連
におじやまします

私たちJR総連(JR西労)は、「鉄道の安全」を基軸に平和・人権・民主主義を守る取り組みを行っています。

しかし、その安全(=社会的信用)を根底から覆す2つの重大事故を発生させてしまいました。それは、2005年4月25日、107名の死者、五百数十名の負傷者を出した「福知山脱線事故」と、翌年1月24日の保線社員(3名)の命を奪った「伯備線触車死傷事故」であり、打ちのめされる思いをしました。

2つの事故は、以前も同種事故があったにも関わらず、「利益優先」の経営陣と安全ルールより「運行優先」の職場風土、そして私たち労働組合の問題意識も問われました。

「伯備線触車死傷事故」では、ご遺族から「組織的な殺人事件」「安全はあなた方自身の問題」という厳しい指摘を受け止め、「作業は列車の運転を止めてから行うこと」と、また、「人はミスをする」という前提に立ったハード対策を導入することを求めてきました。

安全対策は道半ばですが、私たちは事故を風化させないために、毎年1月24日と4月25日には現地での慰靈、街宣や安全集会などの取り組みを行っています。今後も鉄道の安全を貪欲に求めて行きます。

事故現場で献花する組合員

次回は… 森林労連をご紹介



湯原俊二 —緑肥の想い—

菅政権の誕生は、
国民に
何をもたらすのか。



菅政権が誕生しました。菅新総理は、安倍政権の政治を継承すると言っています。ご案内のように安倍政権は、言葉ではアベノミクス、地方創生、一億総活躍、女性が輝く社会など様々なキャッチフレーズをマスコミを通じて繰り出しながら、やってくる政治は格差を拡大させる政治でした。その結果、大都市と地方の格差、産業間の格差、所得格差は拡大するばかりになりました。多くの国民の生活は、苦しくなりました。そこへ新型コロナウイルスの影響が出て、弱い立場の方ほど深刻です。また政治の私物化が極まり、森友・加計学園、桜を見る会、検事長定年延長、河井前法務大臣夫妻の問題など公文書の改ざん・隠ぺい・廃棄など国民に説明責任を果たさない政治が続きました。

こうした安倍政治を菅新総理は、継承すると言っているのです。ご祝儀相場もあって内閣の支持率は跳ね上りました。しかし、こういう政治を今後も続けさせていいのでしょうか。それで国民の暮らしは良くなるのでしょうか。日本の政治は国民に開かれたものになるのでしょうか。

私たち野党は、国民の暮らしや命を守るために、子育て・教育・雇用・社会保障を充実します。そして公文書の管理を徹底し、国民に嘘をつかない透明性高い政治にします。

近いうちに有権者の皆さん、政権を選択する機会がやってきます。政治に関心を持っていただき、政治の在り方を変えていただきたいと願います。

[湯原さんのホームページもご覧ください](#)

湯原俊二

検索

QRコードからも
つながります▶



“ザ・議員”

森 雅幹 烏取県議会議員

新型コロナウイルス感染者に対する差別、中傷等が県内でも起こったこと、今後も起こりうることが非常に大きな問題です。これは未知のウイルス脅威に対し「異質な者を排除する」という私たちに内在する心理が顕在化し、「感染者名探し」「誹謗中傷・排除」「自肃警察」というかたちで現れたものだと思います。

この傾向のもとには、「みんな一緒」「同調圧力」等の子どもの時からの慣行が影響しているものと思われます。差別がいまだに解消されない部落差別に通じるものを感じます。

感染した人が悪いのではなく、また誰でも感染します。多様性が求められる今、改めてこのことを考えてみたいと思います。



6月定例会一般質問の様子

澤田 豊秋 琴浦町議会議員

会計年度任用職員の見直しを

本年4月1日から「会計年度任用職員制度」がスタートしました。この制度では「フルタイム」と「パートタイム」の2つの類型が設けられました。

これまでの「臨時職員でフルタイム」の職が、「会計年度任用職員」では多くの職でわずかな時間を短縮して「パートタイム」に移行したため、月額、年額が下がる人が出てくるという状況が生まれます。

この法律改正の趣旨は、同一労働・同一賃金に対応した非正規労働者の賃金・労働条件の改善であり、財政的な理由で勤務時間を短くしたりするなど、勤務条件の確保等に抑制を図ることは、改正法の趣旨に添わないものです。「スタートしたばかりだが、非正規労働者が多い今日の状況を考えると、是非見直しをしてほしい」と9月議会で質問しました。

回答は「給付の制度・水準等については他の自治体の状況等を考慮しつつ、適宜見直しを検討する」とのことでした。



議会の様子

「ひとり言」その六
相変わらず、陣取り合戦やお山の大将は誰がいいなどと、陳腐な争いごとをしている老人たちがいる。その姿は、滑稽としか言いようがない。
「不要不急や自肃要請」こんな言葉に翻弄されていたのが懐かしいと思う。
マスクや消毒液が必要品となり、人との接触を避けるため、往来を自粛し行動範囲が狭くなつた。コロナ禍で生活スタイルが変わったのだろうか。
新型コロナウイルス感染の脅威や自然災害の猛威に脅えながら不安な日々を過ごしている。見えない敵は人類に容赦がない。
それでも、酷暑の夏が終わり秋の風が心地よいと感じる。四季は、厳しさと優しさを繰り返し与えてくれる。
厳しい風にさらされて、世知辛い世の中に嫌気がさして浮世離れも良いかも知れない。そう思う。孤独は嫌だが、一人ぼっちはいい。今の世は、生きていくことができないことが多い。だからこそ、支えあって生きる。困ったときはお互い悪いことばかりじゃない。
まさに「ひとり言」。たまに「ひとり言」。ひとり言じや生きることばかりじゃない。
大きな声を出して世の中変わらない。(まだまだ小僧)



てんじんこじら

「ひとり言」その六
相変わらず、陣取り合戦やお山の大将は誰がいいなどと、陳腐な争いごとをしている老人たちがいる。その姿は、滑稽としか言いようがない。
「不要不急や自肃要請」こんな言葉に翻弄されていたのが懐かしいと思う。
マスクや消毒液が必要品となり、人との接触を避けるため、往来を自粛し行動範囲が狭くなつた。コロナ禍で生活スタイルが変わったのだろうか。
新型コロナウイルス感染の脅威や自然災害の猛威に脅えながら不安な日々を過ごしている。見えない敵は人類に容赦がない。
それでも、酷暑の夏が終わり秋の風が心地よいと感じる。四季は、厳しさと優しさを繰り返し与えてくれる。
厳しい風にさらされて、世知辛い世の中に嫌気がさして浮世離れも良いかも知れない。そう思う。孤独は嫌だが、一人ぼっちはいい。今の世は、生きていくことができないことが多い。だからこそ、支えあって生きる。困ったときはお互い様。
まさに「ひとり言」。たまに「ひとり言」。ひとり言じや生きることばかりじゃない。
大きな声を出して世の中変わらない。(まだまだ小僧)



再生紙を使用しています